

第18回 南砺の地域包括医療・ケアを守り育てる会を終えて

南砺の地域包括医療・ケアを守り育てる会
会長 山城清二（富山大学附属病院総合診療部）



守り育てる会 山城会長

平成 27 年 4 月 25 日（土）に第 18 回南砺の地域包括医療・ケアを守り育てる会を開催いたしました。今回は、富山市福祉保健部障害福祉課（前中央保健福祉センター長）の保健師中島眞由美氏に、「赤ちゃんから高齢者、障害者その家族が安心して生活できる健康まちづくりを目指して～“人の役に立つ仕事がしたい”何時の時代も保健師はそう思っています～」というテーマで講演していただきました。地域包括ケアシステムの構築では、保健師の役割が重要であると言われていま

す。中島氏は、保健師としての使命感、情熱、そして行動力を持って富山市の保健師事業に取り組んでおり、その熱い思いがひしひしと伝わって来ました。講演の要旨を以下のようにまとめてみました。

- ・保健師活動は時代とともに変わる。○か×か、正解は○。
- ・地域での活動を開始すると、「今更何で」と言われることが多い。しかし、この「今更何で」という言葉がでたら、活動のチャンスであると思っていた。

- ・富山市のコンパクトなまちづくりの 3 本柱：①公共交通の活性化、②公共交通沿線地区への居住促進、③中心市街地の活性化。

- ・地域包括支援センターの 32 か所設置は、中核都市で最多である。

- ・富山市の高齢者施策：『生涯現役』＝普段の体調を整える×家に閉じこもらないこと。

- ・角川介護予防センターが平成 23 年 7 月に開業。

- ・ヘルシー&交流タウンの形成：歩行支援器具を使用したまち歩きツアー、IC ウォーク事業。

- ・認知症高齢者対策：認知症キャラバンメイト 395 人、認知症サポーター数 20,827 人。

- ・高齢者の外出機会の創出：孫とお出かけで施設入園・入館料無料化で、入園数の増加。

- ・街区公園コミュニティーガーデン事業。

- ・都市型の地域包括ケアシステムの構築：富山大学総合診療とプライマリケア寄付講座の活動、まちづくりマイスター養成。

- ・保健師活動の変遷：時代のニーズに応じた活動を展開してきた。

- ・昭和の保健師は地域を歩き回り、地域の人々の健康に関する情報が頭に入っていた。

- ・社会福祉基礎構造改革後に、専門志向、縦割り相談等で、保健師は地域全体を見渡せなくなった。保健師が一步活動を引いてしまった。

- ・中央保健福祉センターの取り組み：①保健師による相談機能の強化、②歩くことの推進、③健康まちづくりの推進（健康まちづくりマイスターの養成）

- ・3 例の事例の提示：複雑な問題を抱えた住民へのチームでの取り組み。

- ・3 人の保健師の活動の紹介。

- ・地域包括ケアを推進するには、地域を基盤とするケア（community-based care）×統合ケア（integrated care）が必要。

- ・最近の他市の保健師との出会い：ネイボラで有名な名張の保健師さん、柏プロジェクトで有名な柏の



富山市役所 中島課長



多くの皆さんにご来場いただきました

保健師さん。共通していたのは、使命感・情熱・行動力であった。

・富山市でおりにふれて話をしていたこと：保健師は市民に役に立つ仕事をしよう。

また、地域の住民は保健師を地域に引っ張り出そう。

・最後に、保健師が地域包括ケア推進の重要な存在だという規範の統合が大事です！

今回の中島氏の講演で、保健師の役割を見直し、今こそ地域に出て、課題を見つけ、その対策をシステムとして確立することが重要であると強く感じました。更に、高齢者対策ばかり取り上げられているが、地域には困っている、気がかり

な住民も多く、赤ちゃんから高齢者、障害者その家族が安心して暮らせるまちづくりを目指すことが地域包括ケアシステムの目的でもあることを再認識しました。

意見交換

情報提供：南真司氏 地域包括ケアシステムの構築に向けて

南砺市の人口推計、在宅看取り数の推移、南砺市でケアができなかった患者の紹介、オランダ研修、地域包括ケアステーションの実証開発プロジェクトの紹介、一人暮らしの認知症の人でも暮らせるまちづくりの覚悟（住民、専門職、行政）、医師会も含めた取り組み等の情報提供がありました。



地域包括課顧問 南 真司 氏

パネリスト：

訪問看護ステーション 所長 重倉俊子氏

保健センター 所長 宗井由栄子氏

地域包括支援センター 副主幹 金兵留美氏

なんと住民マイスターの会 会長 大塚千代氏

各々の活動報告と地域との関わりについて、発言していただいた。訪問看護リハの役割（家の力を感じる事等）、母子保健事業（成人・母子保健予防活動、産後ケア、健やか親子相談、初妊婦や育メン支援等）について、介護予防の取り組み（運動教育等）、住民グループの取り組み（回想法ガイドブック作成、通信簿の作成等）は住民の思い（介護や病院の不安、悩み相談等）。



パネリストの皆さん

今回（第18回）で6年間の取り組みが終了し、翌日から7年目（第7期）に入ります。南先生や各パネリストの発表を聞いて、南砺市では徐々に各地区へ我々の取り組みが浸透してきていることを感じました。しかし、これから住民、専門職および行政が一体となって地域包括ケアシステムを構築いくために、「規範的統合」をし、マイスター養成講座や守り育てる会の活動を通して、一人ひとりが「自分ごと」として積極的に行動することが求められています。皆さん、一緒に頑張りましょう！